

潮見峠に上がる道は、あまり整備されていない……。

道は狭いし……あちこち、イバラやら、ススキやらが生えて道を塞いでいる。登る角度もきつく……足場も悪い。

……しかも、清姫は、単衣に草履という出で立ちである……。とても、山の中を行く服装ではない……。

安珍！……安珍！……一目会いたい……。安珍の声が聞きたい。

年端のいかない……。美しい少女が……。山の中を行くとは思えない服装で、狂ったようになりながら、駆けて行くのを……。すれ違う巡礼者達は、まるで……。物の怪にでも出会ったように。眺めていく……。

しかし、清姫は、そんな事を気にしている余裕はない。

清姫は、何度も転び、身体中、傷だらけになりながらも、先を急いだ。

潮見峠についた頃には、草履の鼻緒が切れ……。着物はビリビリに破けて……。ほとんど、半裸の状態になってしまった。きれいに結び上げてあった髪の毛も、今は、ぐしゃぐしゃに乱れている。

山並が連なる……。清姫は、潮見峠の上から、背伸びをして見渡すけれど、安珍の姿は、見えない。

裸足で……。イバラやススキに肌を切り裂かれ……。血だらけになりながら……。それでも、清姫は……。さらに進む……。

視界の開けた坂道に出た……。清姫は、今まで、ここまで来た事はない……。

ここに、「振木」と呼ばれるスギがある……。清姫は、遊び友達の……。村の子ども達から聞いている。

坂の頂上に、タコのように枝を張り出したスギの樹が見えた。

一目でいい……。安珍の姿が見たい！清姫の願いは……。今は、それだけだった。

清姫は、夢中で、スギの樹の枝に足をかけると上った……。

樹木の向こうに……。田辺の町が見えた……。

田辺の町の上には、青い海が見える。

真砂の土地から出た事のない清姫は、海を見た事がない……。

今……。生まれて始めて見る海だ……。

海の上には、島が浮かんでいる……。

水平線が……。遠く……。遠く、どこまでも広がっている……。